

公表

事業所における自己評価結果

(放課後デイサービス)

事業所名	OZデイしゅうなん				公表日	R8年2月20日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		バギーを置く場所など、必要に応じて支援室以外で一時保管するようにし、スペースを確保するようにしている、	専用のバギーが一人一人に必要なため、できるだけ、その日に必要のないものは支援室に置かないように、整理整頓に勤めている
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		利用者が多い日に合わせて、増員するようにしている。	午後から支援に入ってくれる方のパートを採用をする
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		自力で移動できる子どもがいないが、ワンフロアで児童の全員が見渡せるようになっている。	構造化までは至っていない。音楽等で、場面を変えるような工夫はしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		毎日営業後に次亜塩素酸Naにてフロアの消毒を行っており、整理整頓に努めている	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		子どもの体調により、別室での対応を適宜行っている。	出入り口からバギーがはいりにくいので、引き戸やアコーディオンカーテンなど、出入りしやすいように工夫したい。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6			パートスタッフについても周知していきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		ご意見をいただいた場合は、できだけご希望に沿った支援ができるように努力している	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	外部評価を行っていません。	今後必要であれば、取り入れていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		WEBでの研修にも参加している。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		ホームページにて公表している。	知らない方が多く、さらなる周知が必要。ホームページの紹介など、積極的に行う必要がある。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		全職種で検討し、作成に関わっている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		重心児に関して標準化されたツールが見つからず、ほとんどがインフォーマルな観察ではあるが、行動観察は些細なことでも見逃さないようにしている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		立案は保育士が行い、概ね具体的になると、看護や理学療法士も参加して計画することが多い。	

100 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		季節感ができるように毎年工夫して行なっている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		全員で集団活動後、個別活動を行っている。	下校が遅くなる児童に関しては、時間的に支援が難しい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		朝に打ち合わせを行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		終了後に振り返りを行う。必要があれば、グループLINEで共有を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			支援の充実のために。記録の効率化を図る必要がある。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	1	自己選択ができない子ども多いが、わずかな反応を見逃さないように努力している	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	5	今年は、就学した児童がいらす該当していないが、関係機関とは情報共有を行なっている	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		今年は、就学した児童がいらす該当していないが、関係機関とは情報共有を行なっている	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		必要に応じて訓練の様子を見学させてもらうなどしている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6		月に一度、近隣の幼稚園に行き交流しているが、放課後デイを利用している子供達は交流できていない	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	1	今年度は1回参加した	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		密に連絡を行なっていると思う。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2	PTは障害の特性上、行なっていない。		
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		利用開始の際は説明を行なっている。		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6				
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6				

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	4	2	今年度は、未定。感染症の状況や、子供達の体調、ご家族の都合により、開催のタイミングが難しい。前年度は好評だった。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		感染症の観点から、招待することはできていない。地域の方々との交流は適宜行っている。農園での収穫作業に参加させていただくなど、声をかけていただいている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		把握し、マニュアル化している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		行なってる。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	1		
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	2	周知が徹底されていなかった。	公式LINEやホームページを活用する
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		日報に記載し、日々、振り返りと周知を行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		身体拘束を行っている児童がいない		